



「旅」

2005年召天者記念礼拝





旅への誘い

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也。舟の上に生涯を浮べ、馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅にして旅を栖（すみか）とす。古人も多く旅に死せるあり。」

（松尾芭蕉「奥の細道」序文）



人生も旅である



- 始まりと終わりがある
- 自分で進む道を決めなければならない
- 歩き続けなければならない
- アクシデントが付き物
- 新しい発見もある





聖書の言葉

「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。」

＜ヘブライ人への手紙 11章13節＞



聖書の旅人たち



- アベル：正しい献げ物により殺される
- ノア：山の上に箱舟を造る
- アブラハム：行き先を知らずに出発
：せっかく授かった子を献げる
- モーセ：エジプト王子の座を捨てる
- 三滝グリーンチャペルの先輩たち





この世を故郷にしてしまふ不幸

- この世での幸福・成功・繁栄がすべてとなる
– 自己中心的で強欲になる。
- 思い通りに行かないと失望落胆し、劣等感に陥る
- 常に失うことへの恐れと、失敗や挫折への不安がつきまとう
- 小さな出来事に一喜一憂する





この世を旅にする 幸せ

- 幸福・成功・繁栄にこだわらない
- 思い通りにいかなくても
失望落胆しない
- 不安よりも期待が先行する
- 小さなことに一喜一憂しない
– 旅の醍醐味！





めざせ旅の達人

- 身軽であること
- 旅人であることを忘れない
- 旅そのものを楽しむ
- 正しいゴールを目指して

「彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませぬ神は、彼らのために都を準備されていたからです。」 <11:16>

